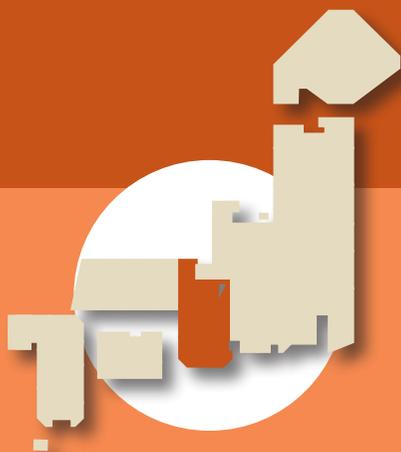


近畿



滋賀県

反甫彰男さん



ソフトボール

40

岡寄幸子さん



ウォークラリー

41

京都府

清水正夫さん



マラソン

42

兵庫県

横田 均さん



剣道

43

奈良県

林 孝光さん



ゲートボール

44

和歌山県

西原哲男さん



弓道

45

大阪市

岡本勝二さん



ペタンク

46

堺市

小西サヨ子さん



卓球

47

橋本幸太郎さん



剣道

48



ソフトボール 「長浜シニア」チーム（監督兼選手）

たんぼあきお

反 甫 彰 男 さん 76 歳 ● 参加歴：4 回目

「チームワークと継続」で打ち勝ち 11 年ぶりの出場

私たち「長浜シニア」は、2006 年の「しずおか大会」以来、11 年ぶりの出場を果たし、チーム全員で大喜びしました。

チームの平均年齢が 70 歳と高齢化した中で、滋賀県予選に臨み、あれよあれよという間に代表となれたのは、老体にムチ打っての週 2 回の練習と、チームワークがあったからこそ。年齢に関係なく、凡ミスや気合の入っていないプレーには注意が入り、好プレーをすれば褒めておだてるのが、いつもの練習風景です。試合中はエラーや三振をしても、一生懸命プレーした結果として、絶対に怒らないことにしています。「ドンマイ・ドンマイ、バッティングで返せ」と励ますことをメンバーに徹底させ、チームワークを最優先に考えています。走れば足がもつれるし、ボールが飛んできても老眼で見失ってしまうのは、全員が認識し、理解しているのです。「明るく楽しくソフトボールをやること」が私たちチームのモットーです。

大会当日は晴天に恵まれ、1 万人余の選手団が参集した素晴らしい総合開会式では、地元の子どもたちによる秋田ならではのアトラクションに感動しました。美味しい昼食弁当をいただいた後、ソフトボール会場の由利本荘市へ移動し、開始式に参加しました。全国より選ばれた 65 チームが勢ぞろいし、主催者側から励ましの言葉をいただきました。高齢者表彰があり、驚いたことに、80 歳以上の参加者が 11 名もいました。最高齢者は 85 歳で、すごい人があるものだと感心し、

これからもソフトボールを続けようと励まされた次第です。

翌日の交流大会初日の 1 回戦は千葉市代表と、2 回戦は山梨県代表と、それぞれ関東の強豪チームと互角に戦い、2 連勝という過去にない成績を上げて選手一同大喜びでした。宿舎で祝杯を上げたい気持ちを抑えるのに苦労しながら、翌日の試合に向けてミーティングで気合を入れました。3 回戦の相手は、高知県代表で教職員 OB のチームです。フィールディング練習から「格」の違いを感じ、予想通り歯が立たずに完敗。しかし、その高知県代表チームが優勝したので、挑戦できただけでも満足でした。

「ねんりんピック秋田 2017」に参加し、ソフトボールで過去を上回る「ベスト 16」に残ったことに、チーム全員満足しました。長年ソフトボールを続けてきた成果で、人生における記念すべきねんりんピックとなりました。開催していただいた秋田県およびソフトボール競技開催の由利本荘市でお世話になった関係諸団体の皆さま、そして、出場の支援をいただきました滋賀県社会福祉協議会、選手の地元からの激励に感謝を申し上げます。



大会初日の 2 連勝の後、チーム全員で記念撮影。(前列右から 4 人目)



ウォークラリー 「びわこ」チーム

おかざきさちこ

岡崎幸子さん 70歳 ●参加歴：3回目

武家屋敷が並ぶ「みちのくの小京都」角館を歩く

2017年のねんりんピックは秋田市で開かれ、ウォークラリーは仙北市で開催されました。

私たち5人はママさんバレーボールと一緒にプレーしてきた40年来の仲間で、ウォークラリーの大津市予選には毎年挑戦しています。全国大会への出場は札幌、長崎に続き、今回が3回目です。滋賀県から東京経由で初めて秋田新幹線に乗って秋田市へ。そこで大勢の方に出迎えていただき、感動するとともに大会の始まりを感じました。

総合開会式は快晴に恵まれ、我が滋賀県選手は県旗を持って琵琶湖をアピールしました。アトラクションはいろいろ工夫が凝らされ、特に竿燈まつりのパフォーマンスは圧巻でした。

さて、ウォークラリーは、開会式の最中はすごい雨でどうなることかと案じていましたが、幸いにも始まる前には小雨になり、我がチームも出発しました。

私たちが住んでいる地域は、比叡山や琵琶湖に

挟まれ、細長くアップダウンがあります。本大会では、角館周辺の歴史を感じさせる街を歩きながらも、時間と難しい問題の解答にせかされて、ゆっくり散策気分を味わえないのは少しもったいない気がしました。桜の時分にもう一度訪れようと誓い、競技に挑んだ結果、成績は初めての銅メダル。大津に戻って家族に見せたところ、じっくり喜びがわいてきました。

せっかく東北に来たのだからと宮城まで足を延ばし、大震災の跡地を訪れました。何もない広い大地を目の当たりにして被害の大きさを実感し、人ひとりいない現実を見て、復興はまだまだ遠いように感じました。

ウォークラリーに参加した5人のメンバーはもう若くはないのですが、今後もバレーボールを生涯スポーツとして後輩たちのサポートができるよう願っています。その前に、まずは健康でいられるよう努めたいと考えています。



40年来のバレー仲間と挑戦し、3回目の出場で見事銅メダルを獲得。(後列左)



マラソン 3km

しみずまさお

清水正夫さん 80歳 ●参加歴：5回目

ねんりんピックへの参加が「生きる目標」に

私が初めてねんりんピックに参加させていだいたのは、2002年の「第15回ふくしま大会」でした。ソフトバレーボールの京都府代表として、全国の人たちを相手にプレーを楽しむ醍醐味と同時に、開会式の興奮をいまだに忘れることができません。

以来、「もう一度ねんりんピックへ」との思いで、ソフトボールやソフトバレーボールの仲間とともに京都府予選会に挑戦したのですが、どうしても代表になることができず、ならばと「マラソン」という個人種目に方向転換をすることにしました。

おかげで、2010年の「第23回いしかわ大会」、2013年の「第26回こうち大会」、2015年の「第28回やまぐち大会」、そして今回の「第30回あきた大会」に参加させていただきまして、本当に、

ありがたいことだと感謝申し上げる次第です。

さて、今回のマラソン種目は、秋田県の最北東部に位置する鹿角市の総合運動公園総合競技場がマラソン実施会場でした。当初、高齢者のマラソンコースだから、平坦なコースで、大勢の市民の方々の声援を受けながら楽しく走る姿を予想していたのですが、実際は、スタート直後から登り勾配で、その後もアップダウンが続く山の中の峠道。応援の人の声もまばらで、最後のグラウンドの400mトラックだけが平坦地というきびしいコースを、とにかく完走しました。

最後に、「マラソン」とは言っても、たったの3kmや5kmを走るのに、わざわざ秋田県まで行く価値があるのかどうかという問題ですが、私は「ある！」と思うのです。それが楽しいのです。なぜなら「ねんりんピックに参加する！」というのが「生きる目標」なのです。そのための努力・節制・精進・トレーニング、そして健康の維持・管理……それが生きがいであり、喜びです。「ねんりんピック」に心から感謝しています。



最後はピースサインで、笑顔のゴール。3kmの距離を走り抜けた。



『走りきて 走り続ける
喜びを 感謝とともに
走り続けん』

「京都府」チームの選手とともに。(右)



剣道 (監督兼選手)

よこた ひとし

横田 均さん 70歳 ●参加歴：3回目

大切なのは勝つことではなく、心が豊かになること

「第30回全国健康福祉祭あきた大会」の剣道交流大会では、67チームが出場するなか5位に入賞、念願の優秀メダルをいただき、私の夢が実現しました。

高校で剣道を始め、子どもの成長とともに剣道に再会、剣道教室での指導45年のキャリアですが、友だちに誘われ、60歳を過ぎて全国大会出場の機会が訪れました。それ以降も稽古に励み、70歳の今年、兵庫県チーム選考会で監督・交代選手として大会に出場することになりました。嬉しかった、孫も喜んでくれました。

兵庫県内各地から選ばれた選手は7名。“仲良く楽しく”が一番のこの大会、稽古をたくさんして酒も飲み、チームの意思疎通を図り、良い成績を望みました。

大会までは、稽古会や県民会館で副知事激励をいただき結団式に全員で参加し、神戸チームとの稽古会や京都武道館での合同稽古会にも参加しました。大会前夜には、秋田市内のホテルで兵庫県チーム167名の結団式に出席しました。その後、宿舎に帰り、夜遅くまでチーム7名の結団式、

飲む人も飲まない人も遅くまで剣道談議をしていたら地震が起こってびっくり。

試合当日は、朝早く剣道着に着替えてバスに乗り、会場に着くと同時に練習会場に直行、稽古で汗をかき開会式に出席しました。激しい稽古に他のチームの選手はびっくり、7名の選手は本当に一生懸命に稽古しました。その結果、予選1試合目は簡単に勝つことができました。予選2試合目は強豪の福岡県に勝利。翌日の決勝トーナメント進出の16チームに入ることができました。

決勝トーナメント第1試合の相手は、地元秋田県チームです。誰もが勝てると思っていなかったのですが、次鋒・中堅が勝ち、副将が本当にすごい戦いで審判も困ったほどの引き分けで勝利しました。続く山口県チームとの戦いは、勝ると皆が思っていたのですが、心の隙が生まれ、チームワークが悪く敗戦となりました。

結果はともあれ、本当に楽しいひと時を過ごし、交流大会後には乳頭温泉に浸かり、飲んで話して、試合の疲れを癒しました。ねんりんピックは勝つことではなく、年寄りが参加して心が豊かになる大会です。この大会を通して「剣道とは人間形成であり、立派な日本人をつくること」だと再認識しました。物が豊かで心が豊かでない現代社会、地域の進展に、心の平和に寄与して残りの人生を生きたいと思います。「ねんりんピック

秋田2017」、ありがとう。



手に汗にぎる熱戦が繰り広げられた。兵庫県チームは5位と健闘。



兵庫県選手団の入場行進。みな、気合い十分だ。



ゲートボール 「チーム香芝」

はやし たかみつ

林 孝光さん 85歳 ●参加歴：1回目

感動の初出場、次は忘れ物(勝利)を取りに！

ゲートボールのスティックを持ってから25年の歳月が経過し、歳を重ねてきた今日まで、ねんりんピックへ出場する同僚、先輩方を祝福してきました。自分自身も一度はこの舞台を味わいたいと希望を抱きながらの毎日でしたが、今年、長年の念願であった県の予選大会で幸運にも県代表権を得ることができました。

9月1日、奈良県社会福祉総合センターで奈良県選手団103名の結団式が行われ、「ねんりんピック」に参加できる喜びと責任を感じました。そしていよいよ9月9日に、秋晴れのもと「ねんりんピック秋田2017」の総合開会式が行われました。開会式では、なまはげ太鼓や創作ダンスなどのアトラクションがあり、選手団入場では、秋田県の小学生に先導されて、47都道府県と20の政令指定都市の選手団1万人が行進しました。光栄にも私が入場行進時の奈良県のアピール役に任じられ、奈良県選手団103名の健闘を誓い、県旗を先頭にせんとくんの小旗を振りながら元気いっばいの行進をし、感動の一日を終えました。

開会式の後にはゲートボール会場である大館市に移動し、宿泊先のホテルルートイン大館で他

府県の選手との懇親会が行われました。日本三大地鳥のひとつ比内地鶏を使ったきりたんぽに舌つづみしながら歓談のひとつきを過ごし、交友を深めながらの有意義な時間を過ごすことができました。

その翌日から、ニプロハチ公ドーム（大館樹海ドーム）でゲートボールの試合が始まりました。ニプロハチ公ドームは、樹齢60年以上の秋田杉2万5千本を使った屋根が特徴的な国内最大の木造建築であり、雄姿輝く美しいドームでの競技会となりました。予選会の結果は1勝2敗で、残念ながら決勝トーナメントには進むことができませんでした。反省会は次回の一歩前進を誓って終了いたしました。

大会終了後は、ホテルの案内係の進言で伝統工芸品の見学に向かいました。到着してみると臨時休業でしたが、店主の計らいで見学させていただくことができました。日本三大美林の秋田杉を薄く削ぎ、熱湯につけて柔らかくして曲げ加工をした伝統工芸品で、弁当箱や食器のほか、現在では柾目の美しさで花器やインテリア商品などにも加工されているのだとか。こうした店主の説明を聞きながら、商品の鑑賞を楽しみました。

最後になりますが、奈良県社会福祉協議会をはじめ関係者の方々には大変お世話をおかけいたしました。厚く感謝申し上げます。



チームの心をひとつにして、ゲートボールの試合に挑んだ。(中央)



地元の小学生から贈呈された横断幕を持つての入場行進。



弓道 (監督兼選手)

にしはらてつお

西原 哲男 さん 62歳 ●参加歴：1回目

決戦の舞台で緊張が途切れ、辛くも準優勝

和歌山県は弓道人口が少なく、今回参加した5名の選手は顔見知りですが、日頃の練習会場が3カ所に分かれているため、大会前に一緒に練習する機会は一度しかありませんでした。その上、私は旗手・選手・監督と三役を務めることになっていたので少し不安がありました。が、壮行式で知事から「頑張ってきてください!」と県旗を渡されると、ベストを尽くそうと心に誓いました。

総合開会式の集合場所に着くと、2年後にねんりんピックが行われる私の地元和歌山県田辺市の視察団がみえていました。みんなから激励を受けて、緊張するも楽しい大会になる予感がしてきました。

今回は67チームが参加し、的中上位16チームが決勝トーナメントに進むことができます。昨年も我が県は決勝トーナメント戦まで残っていたので、最低でもここまでは残りたいと思いました。

いよいよ予選の1回目が始まりました。私が先頭で、後ろを振り返り「よろしくお願いします」と声をかけると、他の4人が続いて射場に入り

ます。私の最初の1本目が的中、後の4人もまずまず的中で順調なスタートが切れました。予選2回日も終わり、上位8位の成績で決勝トーナメントに出場が決まりました。

決勝トーナメントの1回戦の相手は、予選で最高の中を出した地元秋田県チーム。負けを覚悟で臨みましたが、相手チームがまさかの失速で勝利がこちらに転がり込んできました。2回戦も勝ち進み、次の準決勝ではいつものように後ろを振り返り、ひとこと言いました。何を言ったのかは思い出せませんが、みんながその言葉で笑顔になり、実力以上の的中を出して勝利することができました。決勝戦では「よくここまで頑張ったね!」とみんなで労をねぎらいながら決勝の舞台へ。今考えてみると、このひとことが緊張を途切れさせてしまったのかもしれない。勝てない相手ではなかったのに、負けて準優勝に終わってしまったのが残念です。しかし、宿舎での夕食時に県の担当者と隣同士になったので結果を報告すると、大変喜んでくださり、大盛り上がりの楽しい食事会になりました。

最後になりましたが、秋田市の皆さん、秋田弓道連盟の皆さんに大変お世話になり、ありがとうございました。2018年には地元和歌山県田辺市で弓道大会が行われます。十分になおもて

なしができるよう、これから準備を進めてまいります。



5人の先頭に立って弓を引く。代表としてチームを引っ張るのも役割のひとつ。



総合開会式では騎手の大役を無事に務めた。



ペタンク 「千里なにわ」チーム

おかもとかつじ

岡本勝二さん 80歳 ●参加歴：2回目

大会後にますますふくらむペタンクへの熱き思い

今年初めて、大阪市の代表として、「ねんりんピック秋田2017」のペタンク交流大会に参加することができました。

総合開会式では、選手団ごとに統一された帽子、ユニフォームを着用し、沖縄県を先頭に大阪市は28番目に入場行進を行い、その模様を間近に見ることができて、おおいに感動しました。私は、選手団の入場行進に合わせて、短い時間でしたがメインスタンド前の選手団紹介コーナーで大阪市の魅力を全国に発信し、大任を果たすことができて、良い思い出となりました。

翌日のペタンク交流大会は、予選リーグ戦で2勝1敗の成績を取りましたが、得失点差により地元秋田県チームが1位となり、決勝トーナメント戦に進むことができませんでした。

昼食時には、秋田県チームの皆さんと隣り合わせになり、お菓子や果物をいただき、ペタンクの話やお互いの地元の特産品や観光地の話など、おおいに盛り上がり、和やかなひと時を過ごすことができました。このことをきっかけに、全国大会で他府県の選手の方と接する時は、大阪市代表として何をなすべきかを学ぶこ

とができました。

大会後も毎日、ペタンクで日々を楽しく過ごしており、この競技の魅力をどのようにして伝えていけばいいのか腐心しているところです。ペタンクは老若男女誰もが、いつでも、どこでもできる、フランス発祥の生涯スポーツとして知られていますが、日本ではいま一つ普及が進んでいないように感じています。私は機会あるごとにペタンクの魅力を伝えていくため、学生や社会人の方、役所の方などに広く知っていただくこと、資料や大会の案内を作成して配布し、普及活動をしています。

あるペタンク大会では、真夜中2時に起きて、遠く愛知県から大阪府熊取町の大会に参加された95歳の女性の方、また、ある大会では、がんが余命1年の宣告を受けた83歳の男性の方が、抗がん剤の投与を受けずにペタンクを続けている姿を拝見しました。このような人たちと一緒にプレーすることで、生きがいをもつことの大切さ、健康のありがたさなど身をもって知ることができ、勇気がわいてきます。これからもますます頑張っていきたいと思います。



老若男女、誰もが楽しめるペタンクの魅力を多くの人に知ってほしい。



卓球 「ナニワやさかい」チーム

こにし 小西 サヨ子さん 69歳 ●参加歴：5回目

競技を通して広がる、人と地域の交流の輪

「ねんりんピック秋田2017」の総合開会式では、堺市選手団を代表して、堺市のアピールを担当し、貴重な体験をすることができました。

私が住んでいる堺市には、世界遺産の暫定一覧表にも載っている古墳群があり、古くは鉄砲づくりなどに代表されるものづくり産業、千利休・与謝野晶子といった先端的な文化の発信などで栄え、「ものの始まり、なんでも堺」と言われています。全国の皆様に伝えたいことはいっぱいありましたが、時間の都合ですべてを伝えられずとても残念でした。しかしながら、いただいた晴れの舞台はとても気持ちよかったです。

開会式の前夜の地震、期間中ずっと続いた雨模様など、自然にも大歓迎されましたが、総合開会式のアトラクションは竿燈まつりをはじめとしたさまざまなパフォーマンスが素晴らしく、思い出の1ページとして深く記憶に残りました。

卓球交流大会では、全国の代表として参加された皆様の気力、体力、技術がすばらしく、私たちのチームも最善を尽くしましたが、思うよ

うな結果が得られませんでした。

帰路、黄昏時を少し過ぎて暗くなりかけたそのとき、新幹線の車窓から「黄昏の富士山」を見ることができ、一同大歓声をあげました！珍しい富士山のシルエットに遭遇でき、とてもラッキーでした。堺から東北秋田まで鉄道網の充実もしみじみ感じることができ、積極的にかかることにより、いろいろな楽しみが待っているのだと実感しました。

また、卓球競技会場の横手市の担当の皆様には本当に素晴らしいおもてなしをしていただき、帰阪の日には駅まで見送りに来てくださいました。少し時間がありましたので、横手市の「かまくら」も体験でき、楽しい5日間でした。

堺市では、卓球競技を通じて府県を越えた交流がたいへん盛んです。大阪府、大阪市はもとより、滋賀県、京都府、兵庫県、神戸市、奈良県、和歌山県の人たちとは毎月1回、大阪市内で開催している大会で顔を合わせております。その中でも特に、大阪府下の3チームとは行動を共にすることが多く、ねんりんピックを通して知り合った人が大会に参加している時は、一緒に練習に励み、お互いに切磋琢磨してきました。

このように、競技を通して人と人が親しくなり、地域と地域が近くに感じることができるねんりんピックは大きな役割を担っているのだなど、感じております。これからも、ねんりんピックに多くの方が参加し、全国の皆さんと交流の和を広げ、素敵な体験をしていただけることを祈念しております。



競技は残念な結果に終わったが、温かいおもてなしを受けて楽しい5日間に。(前列右から2人目)



剣道 (監督兼選手)

はしもとこうたろう

橋本幸太郎さん 71歳 ●参加歴：2回目

旗手の大任を果たし、温かい拍手に感激

高校生の時に剣道を始め、71歳になった現在も剣道の稽古を続けています。堺市が政令指定都市になって初めてねんりんピックに出場できるようになった2007年の「第20回いばらき大会」から、全国健康福祉祭堺市実行委員会の剣道競技の委員として現在も活動しています。また、「第20回いばらき大会」では剣道競技で出場しました。

その後、忙しくて出場の機会がありませんでしたが、今年は剣道競技の控え選手と監督を兼ねて出場する機会を得ました。また、総合開会式行進の堺市選手団の旗手も任されることになり、選手団の先頭で行進できることはたいへん光栄なことで、しっかりと責任を果たすことが大事と総合開会式に臨みました。

開会式の選手団入場行進は、47都道府県と20政令指定都市の選手団が南の沖縄から順番に行進します。堺市は29番目で、地元の高校生が持つプラカードを先頭に、秋田まごころKIDSの小学生と共に、緊張するなかで行進が始まりました。

メインスタンド中央に來ると、堺市を紹介するアナウンスが流れるなか、堺市の旗を堂々と持って行進。緊張する瞬間でしたが、観客の皆様の温かい拍手を聞き、一味違う感激を味わいながら大任を果たすことができました。

剣道競技予選リーグは、

由利本荘市総合体育館で行われました。堺市チームの派遣選手6名は、ねんりんピック出場が決まって以来、毎週木曜日に集まって稽古を行い、チームワークの強化を図ってきましたが、残念ながら、決勝トーナメントに出場することができませんでした。全国から集まった剣士は、気力、体力および技術に素晴らしいものを持っており、よく稽古をされているようで、稽古を維持していくことの大切さも実感しました。今後は、予選リーグを突破し、常にベスト16入りを目指し、優勝候補になるチームを目指したいと思います。

「ねんりんピック」では、横断幕やのぼり旗の作成に加えて、共に入場行進していただいた秋田まごころKIDSの小学生、入場行進のプラカードを担当していただいた高校生、地元の皆様の温かいおもてなしを受け、たいへん楽しい経験ができましたことを心より感謝申し上げます。



優勝候補となるチームを目指そうと、心新たに。(左端)